

待望の人工芝 グラウンド完成

パフォーマンス向上に期待



完成した人工芝グラウンド

昨春から進められていたグラウンドの人工芝化工事が、11月に完成した。鮮やかなグリーンが映える人工芝グラウンドは、既に体育の授業や部活動で活用されており、生徒の体力向上や競技力増進が期待される。



発行所
金沢市泉本町3-111
金沢高等学校
新聞部・文化委員会

校訓と教育理念

質実剛健の
気風を高揚し
共に求める真理
共に育む友愛
共に尊ぶ礼節
共に鍛える心身

鮮やかな グリーン

完成した人工芝グラウンドの面積は約5000㎡で、サッカーやフットサルのコートも備えている。地下に排水管を埋設し、降雨時の水たまり防止対策がなされているほか、耐久性と安全性を備えた素材が使用されている。

土のグラウンドと比べてコンディションが格段に向上したことで、転んでもけがをしにくく、プレーのレベルアップにつながっている。前年度に完成した新校舎とともに、本校の新たな魅力の一つになりそうだ。



伐採前のポプラ



ポプラの跡地の様子



クレーンを使った吊り切り

学校のシンボル ポプラの木伐採

本校グラウンド脇に堂々とそびえていた全長約16mのポプラの木が、10月末までに伐採された。

ポプラの木の樹齢は不明だが、本校のシンボルツリーとも称される存在だった。しかし、グラウンドの人工芝化により、落葉が悪影響を与える可能性に加え、樹勢が衰えていることから、惜しまれつつも伐採されることとなった。

ポプラの幹周りは約5mあり、内部には空洞も確認された。周辺に電線などがあったため、枝や幹をロープで吊って切り落とす「吊り切り」という特殊な方法で伐採された。

金高祭 完全復活！

4年ぶり 模擬店実施

第95回金高祭は9月27日、28日の2日間にかけて行われ、コロナ禍を経て4年ぶりに復活した模擬店をはじめ、様々なイベントに生徒たちの笑顔の輪が広がった。

完全燃笑 インパクト！

今年は「完全燃笑・隅破駈徒（インパクト）」をテーマに掲げ、1年生は展示や企画、2年生はダンスを行った。3年生の模擬店は、前回は感染防止のため完成品の移動販売のみだったが、今年は作りの食品を販売する本来の形で実施された。屋外では焼きそばやたこ焼きなどを

作る匂いが食欲を誘い、生徒たちが並んで買い求める姿が見られた。



リレーで疾走する生徒たち

体育祭は青団優勝

体育祭は9月20日、いしかわ総合スポーツセンターで行われ、4年ぶりに昼食を挟み、午後の部まで様々なプログラムが実施された。

最初の種目である8の字跳びでは、チームが丸となり、連続回数を伸ばすたびに歓声が上がった。さらにクラス対抗リレーでも、コースを全力疾走する走者一人ひとりに盛大な声援が送られ、白熱した戦いが繰り広げられた。また、部対抗リレーが10数年ぶりに行われ、ユニフォームなどに身を包んだ選手たちのユニークなパフォーマンスが注目を集めた。

伝統守り 改善目指す

後期生徒会執行部 活躍中

令和5年度後期生徒会執行部は10月3日に選出され、長高会長をはじめとする新たな執行部は、良き伝統を守りながら改善を目指す「進保」をスローガンに掲げ、積極的に活動している。

生徒の不満解消を

立候補の理由を聞いたところ、長高会長は「生徒から寄せられる問題を解消したいから」と語り、継続的に取り組む姿勢を明らかにした。また、副会長の濱邊さんは学



任命式であいさつする長高会長

- 令和5年度後期
生徒会執行部
- 会長
長高 大耀 (2年2組)
 - 副会長
濱邊 綾人 (2年2組)
森 咲矢香 (1年8組)
 - 書記
早崎 友菜 (1年1組)
大路 天鈴 (1年8組)
 - 会計
中万 星礼奈 (1年2組)
古谷 睦 (1年9組)
 - 執行委員
小島 武尊 (1年3組)
中川 蓮 (1年3組)

校のために校舎づくりから、同じく副会長の森さんは「生徒みなさんの高校生活をより豊かにしたい」と思ったと、それぞれ出馬した理由を述べた。

今後の抱負について、会計の中万さんと古谷さんは「ひとつひとつの仕事を一生懸命にしたい」、「卒業式を完璧にやり遂げたい」と、意欲を見せた。

生徒会を中心に学校が「進保」できるよう、生徒全体で応援していきたい。

あなたは「安楽死」という言葉を聞いて、どのような印象を持だろうか。死は避けられないもの、苦しいものであることとは事実だが、もしそれが楽になるとすれば、救いと感ずる人もいるのではないだろうか。

主張 安楽死は許されるのか

医師に殺害を依頼

2019年11月に京都府で起きた「ALS患者囑託殺人事件」では、難病の患者がSNSで知り合った医師に殺害を依頼し、実際にこれを行った

らでは、「機械」ではあるが、このような物騒なものに頼らざるを得ない人々が、世の中には数多くいるという事実の一端を示しているのではないだろうか。

医師二人は囑託殺人の容疑で逮捕され、一人は懲役2年6か月の実刑判決を受けた。これに対し、一部は「生きるか死ぬかの選択は、患者個人の思いを尊重すべき」という、安楽死を擁護する意見も

あった。しかし、私自身はこの事件を決して許してはならないと考える。そうした行為が認められれば、死に対するハードルが一気に下がる恐れがある。考えるからだ。

昨年の日本の自殺者は、かつて本欄で書こうと思った

きつかけは、非常に近い存在の人を亡くした経験から、死は常に身近にあるものというところに気づかされたためだ。タブー視されがちな安楽死という問題も、今後の急速な高齢化の進展を見ずして、さらに議論を深めていくべき時に来ているのかも知れない。

生や死は自分の意思でコントロールできないものの一つである。それを自在にできる時代が幸せなのかどうか、命は誰がどう扱うべきなのか、これを読む皆さんもぜひ一度考えてみてほしい。

(木下 英汰)

特集



～オープン直前 徹底取材!～
金沢スタジアムの魅力を探る



大型ビジョンが迫力の映像を提供

同スタジアムは北陸初のJリーグ基準を満たした競技場として、金沢市が約82億2千万円をかけて建設した。地上四階建て延べ床面積約1万9千㎡、収容人数は方人(1万5千席に拡張可能)で約6000人収容の大型ビジョンを備えた草々たる施設だ。

ピッチが近い! 迫力の観客席



ツエーゲン金沢の本拠地となる金沢スタジアム

北陸初のフットボール専用スタジアム「金沢スタジアム」が、今月中旬に金沢市磯部町で誕生する。上質な天然芝のグラウンドにVIPラウンジなど多彩な観客席を兼ね備え、サッカーファンだけでなく幅広い層が楽しめる贅沢な空間だ。新聞部では完成したばかりの金沢スタジアム取材し、そのあふれる魅力を探った。

案内していただいた金沢市スポーツ振興課の高村明宏さんに続いてスタジアムに足を踏み入れると、観客席の赤と黒のモザイク模様の中に「KANAZAWA」の文字が美しく映え、瞬時に興奮が高まっている。「観客席とピッチが近い」(高村さん)ことが特徴というだけに、最前列の席はゴールラインまで7m



高村さん(右)から説明を受ける新聞部員たち



全ての観客席に屋根があり雨天時も快適



VIPラウンジ等があるメインスタンド

見どころはそれだけではなく、入り口には金沢駅の鼓門を思わせるウルカムゲートがあり、メインスタンド内の多目的ラウンジは、Jリーグで唯一、ガラス越しに選手入場を間近で見られる空間となっている。座席の種類はふかふかの豪華なシートから応援重視の立見席まで幅広く、子連れ客のためにモニターで観戦しながら遊べるキッズスペースも備えられている。

クラブファン デイニングを活用

の至近距離で、これが観客に感動を与えられる施設であることが即座に実感した。

こうした施設の拡充の一部には、市民らから寄せられたクラブファンデーニングによる寄付金が使われている。まさに「みんなのホームスタジアム」(金沢市のホームペーシヨ)として、サポーターたちに支えられて完成した施設なのだ。

来季からはツエーゲン金沢の本拠地として主に利用されるが、プロだけでなく一般の利用も可能であることから、私たち高校生が選手として金沢スタジアムでプレーできる機会が巡ってくることもありそう。そうすれば多くの生徒たちも、観客として庄園の応援設備での観戦を楽しめるだろう。

一言では語り尽くすことができないほどの魅力を持つこの金沢スタジアムが、住居の誇りとなり、プレーも応援も楽しむことのできる「聖地」になる日が待ちきれない。

9月に行われた「燃ゆる感動かごしま国体」にて、本校水泳部の東方流河さん(3年5組)が少年男子A50m自由形で2位に入った。

東方さんは「絶対に優勝するという気持ちで予選から全力で挑み、大会新記録でベストを更新することができました。決勝ではタイムを落とし、2位となりましたが、今後を支えてくれる人たちに感謝し、もっと上のレベルで活躍したいと思えます」と語った。



東方さん

10月に行われた「JOCジュニアオリンピックカップU18・U16陸上競技大会」において、本校陸上競技部の森田侑誠さん(1年9組)がU16棒高跳で2位、山本時来光さん(2年3組)がU18棒高跳で3位に入賞した。

森田さんは「今シーズンは伸び悩むことが多かったのですが、自己ベストを更新することができて本当によかったです」と語り、山本さんは「日頃お世話になっている人たちに恩返しをしたいという強い思いを持って跳躍しました」と振り返った。

森田さん
山本さん

このたびの令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に被災された皆様の一日も早い復旧と復興を祈念いたします

今回の取材先の金沢スタジアムでは、未公開の部分に入ることができ、良い経験ができました。また、新入部員が入ってくれたことで、部活動がより楽しめたので嬉しかったです。

95周年を祝う会開催

本校OB七條氏が講演

創立95周年を祝う会が10月17日に行われ、本校OBで認定NPO法人ロシアンテス駐在員の七條孝司氏が「私たちはどう生きるか」と題して、アメリカの人々とともに」と題して講演した。

講演の最後に七條氏は「世界には自分たちが活動できる場所が必ずある」と、生徒たちにエールを送った。

双方の講演とも、深く考えさせられ学んだことが多かった。これからは、母校への愛着と誇りを深め、邁進していった。

講演会には部構成で行われ、第一部「校歌がうなぐ想いのバトン」では江口先生による本校の歴史と校歌に込められた歌詞の意味に関する説明を聞いた後、織田先生の指導の下、全校生徒で校歌を斉唱した。

続く第二部で登壇した七條氏はスーダンの民族衣装に身を包み、国際協力に興味を持ったきっかけや、アフリカで給水所の整備に携わった具体的な支援内容をスライドなどで説明し、途上国支援の重要性を

七條氏の説明に聞き入る全校生徒

Helloペロニカ!

留学生インタビュー

本校では9月から、アメリカ出身の留学生ペロニカ・イザベル・ガルシアさんが、2年2組で学校生活を共に過ごしている。本校での学校生活にも慣れ、充実した日々を送っているペロニカさんに、本校の印象や普段の生活などについて、率直な思いを聞いてみた。

さびしなかったペロニカさんだが、自ら奮闘してバスケットボール部に入学し、部員たちと交流を深めて高校生活を満喫している。「メンバーはみんな親切で、よく助けてくれる」と笑顔を見せ、練習だけでなく遠征や試合も他の部員と同じように楽しんでいる。

日本で行ったみたい場所について聞くと、大阪の道頓堀に興味があるそうで、理由は

本場のたけ焼きを食べたいからだという。また、休日にはショッピングをするのが楽しみの一つだそうだが、ペロニカさんは約1年間の予定で本校に留学しているため、皆さんも彼女を見かけたら、ぜひ気軽に話しかけてみてほしい。

バスケット部の仲間と笑顔を見せるペロニカさん(前列左から5人目)

編集後記

優秀な1年生が頑張ってくれたおかげで、完成させることができました。作りの指導がうまくできなかったにも関わらず、部員たちが良い記事を書いてくれて、感謝の気持ちがいっぱいです。初めて書いた主張はとても苦戦しましたが、推敲を重ね、なんとか完成させることができました。ぜひ読んでいただきたいと思います。

部長 木下 菜汰(2年3組)

今回の取材先の金沢スタジアムでは、未公開の部分に入ることができ、良い経験ができました。また、新入部員が入ってくれたことで、部活動がより楽しめたので嬉しかったです。

森田 真由(2年組)

今回初めて、新聞製作に携わりました。初めての新聞製作ということもあり、何をしたらいいかわかりませんでした。しかし、周りの先輩からのサポートもあり、無事新聞を製作することができました。また、私は戦力として

め、作業に行き詰まりを感じましたが、無事終えることができました。1年生の指導も相まって、見出しや大会の結果をまとめる作業がとても大変でしたが、仲間たちと助け合って作り上げた新聞には達成感がありました。次は、さらによいものを作りたいです。

櫻井 浩登(2年10組)

今回の新聞は私にとって2回目となり、取材や記事の打ち込みなどの仕事にも慣れてきました。これからも精進していきます。

大竹 葵(1年1組)

2回目の新聞製作で、取材時の写真撮影、記事の打ち込みなど、以前より難なく行っていました。今後にもよい金高新聞を書いていきますので、これからもよろしくお願います。

南 晴就(1年1組)

は十分ではないと思いますが、今回の新聞製作では活躍できるよう精進していきます。

南 晴就(1年1組)